

令和 4 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	28	学校名	静岡県立富士宮北高等学校	校長名	中村 真二
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	規律・礼節、規範・帰属意識を醸成し、主体的で健全な生活態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「服装・頭髪指導がしっかりしている」「マナーがよい」保護者評価が各90%以上 ・登校指導40日、昼巡視20日を通して挨拶、声掛けの励行 ・交通事故10件以内 ・交通安全教室4月実施 ・ケイタイマナー教室1回実施、授業、LHR等で生徒自らが情報モラルを考える時間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「服装・頭髪指導がしっかりしている」「マナーがよい」保護者評価がそれぞれ95%(±0%), 91%(+3%) ・登校指導6日(±0日)、昼巡視30日(±0日)実施し、挨拶の励行、黙食の推進に努めた。 ・交通事故14件(+4件) ・交通安全教室4月実施 ・ケイタイマナー教室1回実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・8年間連続で肯定的な評価を達成している。 ・登校指導は昨年同様朝の健康観察を優先し、「ゼロの日」のみで実施した。 ・交通事故で加害者になる事故が増えた。対策を考えたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「教職員は、悩みなどの相談にのってくれる」生徒評価90%以上 ・特別支援が必要な生徒への適切な配慮と支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の90%は達成できなかったが、83%の生徒から評価は得られた。スクールカウンセラーについては、多くの生徒が有効に活用した。 ・支援の必要な生徒のケース会議を行い、適切な支援をすることができた。 ・LGBTQの研修も実施することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談や特別支援についての職員研修を継続して行っていく。 ・特別支援については、分校との連携を図りながら進めていく。 ・LGBTQについても、生徒教員共にさらに理解を深めていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・行事（創立記念行事・式典等）を通じた校訓・校歌の理解・浸透 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長が、機会あるごとに校訓について話したので、生徒は理解を深めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・他の分掌、学年と連携して、継続的な指導を行う。

イ	<p>オンリーワン事業や探究的な学習等を通して、自ら学ぶ態度・確かな学力を定着させ、将来社会で活躍できるグローバルリーダーを育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かりやすく学力が付く授業」85%以上 ・「自らの考えを表現できる生徒」60%以上 ・一日平均普通科90分以上、商業科60分以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かりやすく学力が付く授業」生徒88% 保護者88% ・「自らの考えを表現できる生徒」58% ・テスト期間を含む10日間の学習時間の平均普通科159分 商業科105分 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト期間中においては目標を達成することができた。テスト期間以外の学習時間（主体的な取り組み）の確保が課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業の実施率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者（非常勤除く）のICTを活用した授業の実施状況(37/40) 92.5% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの授業担当者が意欲的にICTを授業に取り入れようとしている。今後は各教科に、活用していない授業担当者も活用する環境や授業内容を検討してもらう必要がある。 ・ICT機器やネットワーク機器は整ってきたが、より充実を図る必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・新課程における適切な観点別評価の実施100% ・「主体的対話的で深い学びの実現に結び付く授業改善に取り組んでいる」職員評価90%以上 ・授業公開週間を年2回以上実施 ・生徒による授業改善のためのアンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価については、内規に従い計画通りに実施している。 ・「主体的・対話的授業」について生徒・保護者ともに肯定率が90%に近く評価が高いが、教員の評価は76% ・授業研修週間を1・2学期1回ずつ実施 ・生徒による授業改善のためのアンケート1・2学期1回ずつ実施。ロイロノートでの実施も行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価については、次年度も同様に行う。 ・授業については、生徒・保護者の評価が高いことから教員の意識が向上した結果と考えられる。今後意識と実践が結びつくよう、さらに働きかけを要する。 ・授業参観率が低いので、他の研修と結びつけながら行う等工夫が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・オンリーワン・ハイスクール事業：コンソーシアムの実施年3回、地域と連携した関係事業の実施10回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムを年3回実施 ・地域と連携した事業や講演等を27回実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内オンリーワン委員会の教員を中心に多くの事業が実施できた。 ・オンリーワン委員以外の教員も事業を担当し、仕事を分担できるようにしたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」：充実した探究学習の実施 ・充実した内容の実施に向けての検討委員会の実施5回 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に様々な探究活動を実施 ・地域や世界に目を向けるような講座を実施し個人またはグループで課題に取り組んだ。 ・検討委員会を5回以上実施 ・実践校の事例研究が十分に行えなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を深める講座を実施し、テーマに沿った探究活動や発表会を行った。 ・時間をかけ、深い探究活動を行いたい。 ・実践校の事例研究を行いたい。

ウ	<p>学んだ知識や技能を実際に活用した実践的商業教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対外的な商業活動 20 名以上 ・3 年の課題研究発表会の実施 ・商業科 2 級以上取得 95%以上、1 級 3 種目以上取得 30%以上 ・「授業等で実践的な取組ができた」と答える生徒 70% 以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒商業研究発表大会 出場や SDG s コンテスト参加など対外的な活動をした。 ・3 年課題研究発表大会 1 月 12 日実施 ・商業科 2 級以上取得(令和 2 年入学生 74/79 (94%)) 3 種目以上取得 26/79 (33%) ・学校教育活動を通じて、社会で活躍できる力が身につけている肯定的評価 81% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・対外的な活動や課題研究発表会に向けた活動を通して、商業の見方や考え方を養うことができた。 ・検定に関しては補講等により、概ね目標を達成することができた。さらに家庭学習の定着を図りたい。 ・来年度も多様な人と社会を創造する力を身につけられる授業を実施する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材による講演会の実施 ・商業科体験入学会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携・外部人材活用では、高大連携授業（2 回）及び知的財産権講座（2 回）を実施した。 ・商業科体験入学会授業を 9 月、10 月（2 日）に実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡大学大学院生との高大連携授業、弁理士による知的財産権講座を実施し、生徒の思考力を深めることができた。 ・商業科体験授業を実施することで中学生・保護者に、商業科の魅力が伝えることができた。商業科教員の負担を考慮しながら、来年度の方法を検討する必要がある。
エ	<p>自己理解・目的意識を高め、系統的な指導を通して個に応じた進路実現を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校外模試偏差値 50 以上が 1・2 年で 20 人以上、3 年で 10 人以上 ・「北高は生徒一人一人に応じて、計画的な進路指導が行われている。」生徒肯定評価 90%以上、保護者肯定評価 80%以上 ・「進路決定先満足度」3 年生肯定評価 95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2 年生の 11 月総合模試では 1 年生 14 名(3 教科総合)、2 年生 5 名(5 教科総合)が偏差値 50 以上であった。3 年生は全統プレ模試で 6 名が偏差値 50 以上であった。 ・「北校は生徒一人一人に応じて、計画的な進路指導が行われている。」生徒肯定評価は 81%、保護者は 83% ・「進路決定先満足度」3 年生肯定評価は 86%であった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な学習のモチベーションをどのように持たせるか。 ・進路意識の高揚が必要。

		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路意識を向上させるため、学期に2回以上自らの行動を記録させ、学期に1回程度内容を振り返ることで、その後の行動が主体的で意識的になること。 ・「学びの基礎診断」としての測定ツールを活用し、進路指導に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを活用して定期テスト、模擬試験の後に効果的な振り返りができた。 ・ベネッセの模試分析会を行って、進路指導に役立てた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・受験の多様なあり方(特に総合型選抜や推薦型選抜)を早期に知らせ、学校生活に意義付けをしたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい入試に対する情報を収集し、学年等で検討会を実施し、進路指導に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生はベネッセに模試分析会で、新しい入試に対する情報を提供してもらい、生徒・教員ともに学ぶことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報」と「数学C」への対応について情報収集及び校内検討していく必要がある。
オ	多様な活動への参加を通して、自己有用感・達成感、豊かな人間性、共生意識、社会的資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「充実した部活動により人間性が高められた」と答える生徒85%以上 ・ボランティア活動に参加50%以上 ・生徒会を中心としたボランティアの参加4回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活動に参加し、生徒の人間性が高められた」生徒評価87%(+1%) ・「ボランティア活動に参加した」生徒評価36%(-4%) ・生徒会を中心としたボランティアの参加5回以上実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動により人間性が高められた」は大多数の部活動で成果が上がっているように感じる。 ・コロナ禍で制約がある中、分校との交流や市役所でのボランティア活動等、例年にはない活動にも積極的に取り組み、生徒の主体性や社会性を育てた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書を時間通り始めているクラス100% ・奨励図書を生徒公募、ビブリオバトル活動の継続 ・図書貸出各クラス100冊以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「時間通りに朝読書に取り組んだ」について生徒は94%と回答しており、落ち着いて実施ができています。 ・ビブリオバトルはHRごとに多少の差はあるが取り組みは良好である。 ・ブックフェア、図書購入を行った。 ・図書貸出100冊以上2クラス 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルは、学年のチャンプ本を選出する、県の大会に参加させる等、さらに内容を充実させたい。 ・図書委員会で貸出を奨励する方法を検討する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は清掃や整頓がきちんと行われていてキレイである」職員評価70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度42%から50%に評価は上がったが、目標である70%まで達成することはできなかった。 ・分校とともにしている大月線沿いのプランター植栽活動で、県知事から表彰を受けることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃場所の精選を行うとともに1足制に伴う新たな清掃用品の導入を検討する。 ・共生教育の一環として、来年度以降もプランター植栽活動を継続していきたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・分校との交流 20 回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりに北嶺祭体育の部を合同開催し、部活動、委員会等で分校との交流を20回以上行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・同世代との交流を通して、お互いを認め尊重し合う心を育てることができた。
カ	外部諸機関・地域との連携や積極的な広報活動を通して、開かれた学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修体制：教職員向け校内研修 2 回以上 ・生徒の地域防災参加 60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災訓練は役に立った」の回答、生徒 80%、保護者 71%、教員 74%。 ・マンホールトイレ設営研修等、教職員向け校内研修 2 回実施。 ・修学旅行と訓練日が重なったり、コロナ禍で高校生が参加対象外だったりしたため、生徒の地域防災参加率は 11.6%に留まった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練、教育ともに充実していたと思われる。 ・生徒対象の、訓練・教育を継続する。 ・教員対象の、訓練・研修を工夫する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学アンケート、満足度 70%以上 ・魅力的な体験入学および公開授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学中学生満足度 98% 保護は満足度 95% ・商業科の体験授業を新たに計画し、実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体験授業の実施により、中学生の満足度が高かった。 ・コロナ禍の中で、申し込み、受付、体験授業等業務の分担に工夫が必要。
		<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な広報資料の作成と中学校訪問年 3 回の実施による志願者の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明資料と学校紹介動画を更に工夫し、充実させた。一日体験入学では、商業科の体験授業も実施した。学校ホームページをほぼ毎日更新した。 ・中学校訪問を年 3 回実施して、得られた情報を分析し、志願者確保に役立てた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明資料と学校紹介動画は、中学生にとって更に親しみやすくなりわかりやすいものになった。 ・中学校訪問で得られた情報は、概ね本校に好意的なものばかりであった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・月 4 回以上のホームページの更新 ・PTA、学校後援会及び同窓会との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・北高ニュース、部活動結果、オンリーワン活動報告など、更新は活発に行われた。中学生がよく閲覧しているようである。 ・奉仕活動は雨天のため中止となったが、「ゼロの日」の声掛け運動やマラソン大会の巡視等で、PTAと連携して活動した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更なる活性化。 ・PTA、後援会、同窓会との連絡を更に密にする。

キ	教育活動を推進していくために必要な校内研修を実施し、教員の資質向上を図り、安全で信頼される学校づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修参加 95%以上、満足度 80%以上 ・事例研究、グループ研修を年3回以上実施 ・校外研修を報告することで情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修参加率ほぼ95%程度、満足度はほぼ90% ・チーム研修5回実施、議事録を職員室に掲示して情報共有を図った。 ・ICTの視察等を校内研修会で報告し、全職員で情報共有した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善、ICT活用等教員から要望のある研修を更に充実させ、参加率及び満足度を維持する。 ・チーム研修のさらなる充実を図り、情報共有を行うことで教員全体に波及させたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス委員会を年3回開催し、職場環境や教職員の勤務状況を把握して適切に対応 ・コンプライアンス通信を配布し注意喚起 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修を毎月実施した。グループワークも行った。コンプライアンス委員会を年3回実施した。 ・コンプライアンス通信を随時配布し、注意喚起した。 ・自己点検表を年3回実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修や自己点検表によって、コンプライアンス意識が高まった。セクハラや体罰等は皆無だった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・各教室への消毒設置 100% ・マスク着用 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒設置、マスク着用 100%を共に達成することができた。 ・感染症に対する適切な啓発活動を行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降も、新型コロナウイルス感染症に対して、状況に応じて適切に指導していく。必要に応じて、よりよい環境整備も行っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・監査等における指摘事項0件 ・光熱水費の使用量節減による学校運営に係る予算の確保 ・施設設備安全点検月1回以上により事故発生0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・監査、会計物品検査での指摘事項0件 ・使用料の前年比は電気3.5%増、水道20%減、ガス15%増 ・プロジェクター、アクセスポイント等のICT環境を整備 ・月1回以上の点検により、施設設備の安全管理を実施し事故発生0件 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き適正な事務処理に努め、ケアレスミスを減らす。 ・光熱費高騰により電気料金は前年の約70%増、ガス料金は44%増で、予算の確保が厳しかった。 ・安全点検により、施設設備の修繕を実施した。今後も、安全で信頼される学校づくりを推進する。
ク	教職員の多忙化解消に向け、「業務改善」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの結果が県平均より良好 ・職員会議は協議事項の意見交換を主として、連絡事項は分かりやすい資料の配布で簡略化 ・業務のデータを活用した効率的な業務の実施、次の担当者のために業務のマニュアル化 ・定期テスト監督の平準化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの結果は県平均に届かなかったが、国平均よりは良かった。 ・職員会議や運営委員会の資料を事前に配付し、情報交換や意見調整をして、会議時間を短縮した。 ・業務のマニュアル化を各分掌で進めることができた。 ・定期テスト監督の平準化は達成できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・会議時間を短縮することができた。 ・勤務時間の短縮はなかなか難しいが、多忙化解消に対する職員アンケートの結果は若干向上した。 ・業務のマニュアル化、精選、平準化について、更に改善を進める必要がある。

